

## 第8章 事後調査の実施に関する事項

---

### 8.1 事後調査の考え方

事後調査とは、環境影響を及ぼすおそれがあるとして調査、予測及び評価を行った環境影響評価項目に対して、予測の不確実性を補い、環境の保全のための措置等の適正な履行状況を確認することを目的とし、対象事業実施区域及びその周辺の環境調査、施設の状況調査等を実施するものです。

事後調査は、環境影響評価において環境に及ぼす影響が比較的大きいと想定された環境影響評価項目、並びに予測の不確実性が大きい環境影響評価項目を対象として行います。

## 8.2 事後調査項目の選定

事後調査項目として選定した理由、並びに選定しなかった理由は、表8.2-1(1)～(2)及び表8.2-2(1)～(2)に示すとおりです。

表 8.2-1(1) 事後調査項目の選定・非選定の理由（工事中）

時期	環境項目	環境影響要因	選定・非選定	選定・非選定の理由
工 事 中	温室効果ガス	建設機械の稼働 工事用車両の走行	×	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い発生が想定される二酸化炭素排出量は約 1.28 万 tCO <sub>2</sub> /期間であり、横浜市の 2014 年度の温室効果ガス総排出量の速報値（実排出）（2,136.5 万 tCO <sub>2</sub> ）の 0.06%程度と考えられるため、選定しません。
	廃棄物・建設発生土（産業廃棄物）	建築物の建設	○	廃棄物発生量、リサイクル率及び環境の保全のための措置の実施状況を把握するため、選定します。
	廃棄物・建設発生土（建設発生土）	地下掘削	○	
	大気汚染	建設機械の稼働	×	本工事の建設機械の稼働に伴う一般環境大気質への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。
		工事用車両の走行	×	本工事の工事用車両の走行に伴う沿道大気質への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。なお、工事中の交通量は、地域社会の事後調査において把握します。
	騒音	建設機械の稼働	○	本事業は、隣接事業と工事期間が重なる可能性があります。予測結果の補完及び環境の保全のための措置の実施状況を把握するため、選定します。
		工事用車両の走行	×	本工事の工事用車両の走行に伴う道路交通騒音への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。なお、工事中の交通量は、地域社会の事後調査において把握します。
	振動	建設機械の稼働	○	本事業は、隣接事業と工事期間が重なる可能性があります。予測結果の補完及び環境の保全のための措置の実施状況を把握するため、選定します。
		工事用車両の走行	×	本工事の工事用車両の走行に伴う道路交通振動への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。なお、工事中の交通量は、地域社会の事後調査において把握します。
	地盤沈下	地下掘削	×	本工事では、剛性と遮水性の高い山留壁等を透水性の低い地層まで設置するとともに、施工管理で適切に対応していくことにより、周辺の地盤沈下を回避・低減できると考えられるため、選定しません。

○：事後調査項目として選定した項目です。

×：事後調査項目として選定しなかった項目です。

表 8.2-1(2) 事後調査項目の選定・非選定の理由（工事中）

時期	環境項目	環境影響要因	選定・非選定	選定・非選定の理由
工 事 中	地域社会 (交通混雑)	工事用車両の走行	○	本事業は、隣接事業と工事期間が重なる可能性があります。予測結果の補完及び環境の保全のための措置の実施状況を把握するため、選定します。
	地域社会 (歩行者の安全)	工事用車両の走行	×	工事中の歩行者等の安全は、工事用車両の走行ルートである一般国道 15 号等の道路両側にマウントアップ構造の歩道が整備されていること、交通誘導員を配置することによって確保できるため、選定しません。
	文化財等	地下掘削	○	予測結果の補完及び環境の保全のための措置の実施状況を確認するため、選定します。

○：事後調査項目として選定した項目です。

×：事後調査項目として選定しなかった項目です。

表 8.2-2(1) 事後調査項目の選定・非選定の理由（供用時）

時期	環境項目	環境影響要因	選定・非選定	選定・非選定の理由
供 用 時	温室効果ガス	建築物の供用	×	建築物の供用（設備機器等の稼働）に伴い想定される二酸化炭素排出量は、1.45 万 tCO <sub>2</sub> /年であり、横浜市の 2014 年度の温室効果ガス総排出量の速報値（実排出）（2,136.5 万 tCO <sub>2</sub> ）の 0.07%程度と考えられるため、選定しません。
	生物多様性 (動物・植物・生態系)	建築物の存在	○	当該項目は、積極的な環境影響評価の実施を目的として選定した項目です。そのため、事後調査項目として積極的に選定します。
	廃棄物・建設発生土 (一般廃棄物)	建築物の供用	×	施設からの廃棄物は委託業者等により適正な処理が行われると考えられるため、選定しません。
	廃棄物・建設発生土 (産業廃棄物)	建築物の供用	×	
	大気汚染	関係車両の走行	×	本事業の関係車両の走行に伴う沿道大気質への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。

○：事後調査項目として選定した項目です。

×：事後調査項目として選定しなかった項目です。

表 8.2-2(2) 事後調査項目の選定・非選定の理由（供用時）

時期	環境項目	環境影響要因	選定・非選定	選定・非選定の理由
供用時	騒音	関係車両の走行	×	本事業の関係車両の走行に伴う道路交通騒音への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。
		建築物の供用	×	建築物の供用（設備機器等の稼働）に伴う騒音の影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。
	振動	関係車両の走行	×	本事業の関係車両の走行に伴う道路交通振動への影響の程度は小さいと考えられるため、選定しません。
	電波障害	建築物の存在	×	本事業に起因するテレビ電波受信状況に対しては、必要に応じて適切な対策を行うため、選定しません。
	日影（日照障害）	建築物の存在	×	周辺地域の生活環境及び公共性の高い施設に対して、本事業に起因する日影の影響の程度は小さいことから、選定しません。
	風害	建築物の存在	○	建築物の供用までの期間に風環境が変化するおそれがあるため、予測の不確実性の補完及び環境の保全のための措置の実施状況を把握するため、選定します。
	地域社会（交通混雑）	関係車両の走行	×	本事業の関係車両の走行に伴う交通混雑の程度は、周辺の交差点に過剰な負荷をかけることはないと考えられることから、選定しません。
	地域社会（歩行者の安全）	関係車両の走行	×	供用時の歩行者等の安全は、対象事業実施区域内に遊歩道を設けるとともに駐車場出入口にはミラー等を整備することによって確保できるため、選定しません。
	景観	建築物の存在	○	計画建築物が出現することによる周辺景観との調和の状態と、圧迫感の状況を確認するため、選定します。

○：事後調査項目として選定した項目です。

×：事後調査項目として選定しなかった項目です。

### 8.3 事後調査の内容

事後調査の内容は、表 8.3-1及び表 8.3-2に示すとおりです。

表 8.3-1 事後調査の内容（工事中）

環境項目	調査項目	調査頻度	調査位置	調査時期	調査方法
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物及び建設発生土の発生量及び処分量	工事期間中	工事敷地内	工事期間中	工事現場の廃棄物処理計画に基づき、廃棄物の分別項目ごとに月単位で集計
	環境保全のための措置の実施状況	工事期間中	対象事業実施区域内	工事期間中	工事資料の整理及びヒアリング等
騒音	建設機械の稼働に伴う騒音レベル	平日 1 回	居住環境等に近接し、かつ、影響が最大と想定される工事敷地境界の 1 地点	工事の最盛期において、工事時間に前後 1 時間を加えた時間帯	「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年 11 月 27 日 厚生・建設省告示第 1 号）に準拠
	建設機械の稼働台数及び稼働位置		工事敷地内		現地調査（目視）、工事資料の整理及びヒアリング等
	環境保全措置の実施状況	適宜	対象事業実施区域内	工事期間中	工事資料の整理及びヒアリング等
振動	建設機械の稼働に伴う振動レベル	平日 1 回	居住環境等に近接し、かつ、影響が最大と想定される工事敷地境界の 1 地点	工事の最盛期において、工事時間に前後 1 時間を加えた時間帯	「振動規制法施行規則」（昭和 51 年 11 月 10 日総理府令第 58 号）に準拠
	建設機械の稼働台数及び稼働位置		工事敷地内		現地調査（目視）、工事資料の整理及びヒアリング等
	環境保全措置の実施状況	適宜	対象事業実施区域内	工事期間中	工事資料の整理及びヒアリング等
地域社会	工事用車両の走行台数	平日 1 回	予測を行った 6 交差点と工事現場ゲート	工事の最盛期において、工事時間に前後 1 時間を加えた時間帯	工事現場ゲートでは大型・小型別の入・出庫の記録を 15 分ごとに集計 交差点では、方向別、車種別、時間帯別に観測し、15 分ごとに集計
	環境保全措置の実施状況	適宜	対象事業実施区域内及び周辺道路	工事期間中	工事資料の整理及びヒアリング等
文化財等	埋蔵文化財包蔵地の確認状況	掘削工事期間中適宜	対象事業実施区域内	掘削工事期間中	事前調査の結果、工事資料の整理及びヒアリング等

表 8.3-2 事後調査の内容（供用時）

環境項目	調査項目	調査頻度	調査位置	調査時期	調査方法
風害	風向・風速	1年間連続	風洞実験の防風対策により改善が見込まれた地点のうち適切な地点の付近1地点	計画建築物の竣工から1年間	「気象観測指針」等に準拠
	環境保全措置の実施状況	適宜	対象事業実施区域及びその周辺		現地調査（目視）及び関連資料の整理等
景観	主要な眺望点からの眺望及び圧迫感の状況	1回	フォトモンタージュによる予測を行った9地点	計画建築物の竣工から最初の夏季	写真撮影
	環境保全措置の実施状況	適宜	対象事業実施区域内		現地調査（目視）及び関連資料の整理等
生物多様性	環境保全目標種の出現状況	適宜	対象事業実施区域内	計画建築物の竣工から1年間	現地調査（目視）及びヒアリング等